

JCCA 社団法人 建設コンサルタンツ協会
2007 年度 懸賞論文

テーマ：「みなさんが暮らす日本の街は美しいですか？」

「千葉駅周辺
～明確なコンセプトに基づく
景観形成について～」

明治大学 農学部 農学科 3年 アメニティ緑地学研究室
大野絵実

大学の先生の紹介で応募しました。

1.はじめに

「あなたの暮らす街は美しいですか?」と問われて、すぐに千葉駅周辺の景観が思い浮かび、「あの街は好きだけど、美しいとはほど遠い景観だ」という思いであった。では、「美しい街とはどんな街だ?」という疑問も浮かんだ。人によって美しい街とは違いうだろうが、私が考え、求める美しい街はどんなものか。この論文を通じて、千葉駅周辺の現状、汚いと感じる原因をあえて否定的に探り、そこからどう変えたら美しくなるのか考えていき、また私が考える美しい街、美しい千葉駅周辺の景観を見つけ出していこうと思う。

2.私にとっての千葉駅周辺

私にとって千葉駅周辺とは、小・中と電車に乗って少し遠出をして遊びに行く街であり、高校は徒歩圏内であったので学校帰りに遊ぶ街であり、今は高校時代の友達と再会する街である。私にとって、千葉駅周辺とは自分が住み・生活している街とは違うけれども、地元と呼べる、子供のころからなくてはならない街である。しかし、何十回と訪れても一度も一度も千葉駅周辺を美しいと感じたことはなく、むしろ大学に入り景観という言葉を知ってから汚い街だと感じてしまっている。

3.千葉駅周辺の現状

千葉駅は千葉市中心部に西端に位置し、JR 東口・モノレール駅前、JR 西口、西口に付近に北口があり、JR 東日本と千葉都市モノレールの駅があり、近くには京成千葉駅もある。JR 千葉駅は総武本線、横須賀・総武快速線、中央・総武線、外房線、内房線と多数の路線の乗り入れがあり、千葉都市モノレール、京成電鉄の乗換駅ともなっているため 2006 年度の JR 東日本の統計にとれば、1 日平均乗車人員 105,746 人で県内第 4 位であり、東口にはバスターミナルもあり、駅付近は常に多くの人がいる。

東口にはバスターミナル、モノレール、京成電鉄の乗り換え方面である上、駅ビル、そごう、三越などのデパートやショッピングセンターがあり、パルコや中央公園に向かう大通りがある。そのため、利用者のほとんどは東口に集中している。西口はほとんど開発が進んでおらず、古いビルや建物があるだけであり利用者はあまりいない。北口はロータリーなど整備され学校があり、西口に比べ利用者はいるがまばらという感じである。そこで、この論文では東口周辺に景観を中心に進めていく。

4. 千葉駅周辺景観(現状)

①電車の高架下の暗さ、老朽化



この2枚は、わざと露出補正も行わず、フラッシュもたかずに撮影した写真である。撮影日時は8月下旬の午後2時過ぎにもかかわらず、この暗さである。電車の高架はJR千葉駅から京成電鉄の千葉中央駅まで続いている、その下の多くはショッピングセンターが続いている。しかし、写真のようなショッピングセンターに接していない空間や横断歩道なども存在する。その多くは、ほとんど日光の光が入らないところもあり、そのためか高架下にはほとんど植栽もなく、晴れの日でも湿っぽく、浮浪者が昼間から寝ていたり、不衛生な感じである。

②路上駐輪された自転車・バイク



千葉駅周辺は、どの道歩いても必ずと言っていいほど自転車・バイクが路上にとめられている。左の写真では、何個も看板を置いて駐輪禁止を訴えているがこのように多くの自転車がとめられている。写真の道は、幅が広い歩道なので歩行者の通行にそれほど大きな障害はないが、それでも自転車の出し入れの際に歩行者にあたりそうになったり、子供や高齢者はぶつかりそうになったりしている。もちろん、狭い道では大きな通行の妨げとなっている。また、景観的にも美しくないと感じた。

③風俗店やその看板の位置



→写真左に見える青い看板が風俗店のもの。

大通り、人通りの多い道沿い、大通りに接している脇道には、多くの風俗店の看板や店舗があることに目につく。このような看板や店舗は周囲の景観との調和というものとは無縁のところにあるような色使いやデザインであり、景観を壊す大きな要因の一つであると考えた。

④電柱・電線の不整備

千葉駅周辺の多くの大通りや人通りの多い通り(名前が付けられている通り)では、電柱や電線は見当たらない。ところが、その通りの脇道や、千葉駅から5分程歩いたところにあるパルコ・中央公園前の通りには電柱・電線がいたるところで見られる。電柱・電線がない景観に慣れたところに見られるようになると、急に視界に入る景観がゴチャゴチャしだしてしまう。特に、パルコ・中央公園前の通りには樹木が他に比べ多くあるので、余計に自分の視界の中が密集した感じになってしまう。

⑤植栽の少なさ

千葉駅周辺は植栽が少ないと感じている。最初に論じたように、高架下によって暗い空間があって植物が育ちにくいというのかもしれないが、日当たりの良い大きな通りでも樹木はもちろん、花やグランドカバープランツはほとんど見られない。その為に、夏の昼間など日陰はほとんどないし、千葉駅周辺は自動車の交通量も多いので排気ガスを歩行者は直接受ける形になってしまっている。また、風俗店の看板も樹木のように遮るものがないので余計に浮き立ってしまっている。

⑥モノレールによる景観、川の現状



←写真の葎川に浮かぶ白いものは全てゴミ。

千葉駅周辺のモノレールは葎川を下にして走っているが、この葎川は写真に見られるように多くのゴミが投げ捨てられ、水質も黒っぽい緑と、かなり悪いと考えられる。また、両岸には遊歩道やベンチ、橋の上にも東屋のようなものが設置されていたりするが、利用者はめったにいない。川は汚く、その周囲も掃除などの管理もあまりされていないようで薄汚れてしまっているのが当然と言えば当然であろう。

5.千葉駅周辺景観(提案)

①電車の高架下の暗さ、老朽化の解消

現在、高架下のショッピングセンターとなっている空間は常に人も集まり、活性化している。一方、ショッピングセンター同士をつなぐ、外と接している空間が問題としている高架下のイメージ(高架下=暗い、汚い)である。ここに浮浪者が昼夜問わずいる事もあり、汚いという印象を通行人に大きく与えていると考えた。この印象の違いを埋め、新たに千葉駅から京成電鉄の千葉中央駅までの道のりが明るいイメージとなるように提案したい。また、高架下の周囲は外壁の塗装が落ちてきていたり、イタズラ描きがあったりと古びた印象であるので、そこもイメージを一新したい。

まず、高架下のマイナスイメージの一番の原因は老朽化によるものだと考えた。しかし、高架自体を立て替えることは不可能である。そこで、まずは塗装の塗り替えを提案する。明るい色、周囲との調和を考えたものにより新しく、明るい印象を与えることが出来ると考えた。これにより、高架下周囲からの印象が大きくプラスイメージに転換することができるだろう。また、日光が当たらず暗くなってしまうところは昼間でも明るくなるように街灯を設置するなどして、減らす工夫をしていってはどうか。

②路上駐輪された自転車・バイク

「千葉駅周辺は路上駐輪をしても構わない」という市民の考えがあらわになっているのが、どこを歩いても見られ、禁止を訴える看板前にもどうどうと止められている路上駐輪の現状である。実際、この考えは千葉市民に強く根付いてしまっているのが自転車を利用する多くは、路上駐輪を繰り返している。確かに、自動車と違い環境には何ら悪影響を与えてはいないが、歩行者からすれば路上駐輪、歩道を我が物顔で走り回る自転車はかなり

嫌な存在である。千葉駅周辺は歩道の幅が狭いため、路上駐輪に、歩道を走る自転車がっていると本当に歩きづらい。ここで私が考えたのは、都市景観とはその対象としている街全体の景観的な美しさよりも、その街で生活する人、利用する人が快適で、安全であることが重要であるということである。そのため、この路上駐輪は高齢者、子供、ベビーカーを引いた母親、視覚障害者の人たちからすれば危険極まりないので、ここまで路上駐輪が広まってしまった以上、千葉市や中央区が積極的に路上駐輪を取り締まる法律や姿勢をすることから始まると思う。路上駐輪がなくなれば歩道も広くなり、景観的にも美しくなることだろう。また、今まで自転車を利用していた人のためにオープンスペースの多い西口や南口に大型の駐輪場を作り対応していくことを提案する。

また、千葉駅周辺の歩道幅の狭さから歩道に自転車も走ること自体が危険だと思った。歩道も狭い道は車道も狭く1車線しかない。そこで、思い切ってそのような道は自転車・バイク・自動車の通行を禁止して歩行者だけの道にしてみしてほしい。

③風俗店やその看板の位置

風俗店の看板は現状で述べたように景観を壊す大きな要因である。そこで、大通りや人通り、子供が通る道には千葉市や中央区が、店舗を目立たないように規制する、看板のサイズ・デザイン・色を規制するようにすることが一番の効果だろう。私としては、千葉駅中央公園の先にある風俗店が集中しているエリアだけに来店制限をかけるくらいの規制をしてほしい。こうすることにより、電車から見える風景、歩く風景からそぐわないものが消え、かなり変わってくると思う。

④電柱・電線の不整備

この問題は千葉駅周辺だけでなく、日本中の都市景観でも問題となっているものだろう。この千葉駅周辺では、駅付近だけが電柱・電線が地上で見当たらないのに、駅から5分も歩けば急に現れだしている。これは地上にない方が景観的に良いことを知っていながら、予算的な問題等で途中で止めてしまったということである。実際にある・ないで景観的にどちらが良いかは千葉駅から歩いてみれば一目瞭然である。もちろん電柱はない方が歩道幅も広くなり歩きやすく、電線がなければ視界に入る景色が広く整然とし、明らかに街が美しく見え出す。早急に、電柱・電線の地中化を進めてほしい。

⑤植栽の少なさ

大学で植栽についての講義を受けてから色々な街に行くたびに植栽に注目して歩いている。都心で再開発され、最近リニューアルした街や施設は積極的に環境を配慮してもあるが緑を取り入れているので、千葉駅を降りると緑の少なさからか、都心よりも無機質な印象を受ける。実際、千葉駅周辺は極端に緑が少ないとは感じる。ただし、駅前のバスターミナルから延びる4車線の中央公園に続く大通り沿いは、「中央公園プロムナード」と名付けられ約80種類の花木が植えられている。緑があるため日差しの強い日でも緑陰があるので歩きやすく、自動車とビル街が続く道でも景観的にも美しく感じることができる。ところが、その大通りを一步入った人通りの多い道には、樹木はほとんどなく、緑といえばお店のプランターに入った花壇くらいのものである。私が考える美しい街に、一番重要なものは植栽であるとは常々感じているので、千葉駅周辺の植栽の様子は残念でならない。

ここで植栽をしてほしいというのが私の提案ではなく、植物というのは管理し続けなければいけないものである、区や市民によってまちづくりの一環として植え付け、

管理に取り組んでほしいということである。樹木については区が定期的を選定などの管理を業者に委託し維持していく。花やグランドカバープランツなどの植物に関しては、様々な街で実際に行われているように、市民が中心となって植え付け、管理を定期的に行っていく。これにより地域の人同士の交流の場にもなるし、千葉駅周辺を利用するだけの人もまちづくりに参加することにより、親しみを持って千葉駅を利用できるようになるのではないだろうか。

⑥モノレールによる景観、川の現状

千葉駅周辺の景観の大きな特徴は、モノレールと葭川である。しかも先に論じたようにこの2つはセットとなって走っているの、現在のように川が汚いとモノレールも古く感じてしまう。実際、来年開業20周年と聞いて、そんなに新しかったのかと思った。千葉駅周辺にとってモノレールと葭川はシンボルである。それを利用者が誇れるようなイメージになるような景観にしたい。

まず葭川だが、本当に「くさい、汚い」の一言に尽きる。橋や岸辺の遊歩道はきちんとしたデザインで作られているのに利用者があまりいない。今年の夏に京都に行った際、京都の川はきれいな水質、景観をしているためか、川に入って遊ぶ人が多く見られた。また、特に目に付いたのが、旅行者だけでなく地元の人でも橋の上に立ち止まって、川やそこからの風景を眺めていた。ところが葭川でそのような光景を見たことはない。ゴミが散乱し、異臭がし、黒っぽい緑色の川を誰が眺めたいだろうか。だが、葭川がこうなった原因は人為的なものである。だから、市や区、市民が中心になって葭川をきれいにするプロジェクトを立ち上げ、一体となっていけば、何年もかかるだろうがきれいな川になるのではないか。そのプロジェクトと同時に葭川周辺のゴミも一掃して葭川周辺を再生していけば、周囲の景観と合った葭川が再生するだろう。そして、一番のシンボルであるモノレールも際立っていくのではないだろうか。

6. 美しい千葉駅周辺の景観とは？

このように千葉駅周辺のいくつか視点に絞って現状把握、提案をしていくうちに私が求める美しい千葉駅周辺の景観が見えてきた。千葉駅周辺は開発していく際に、千葉駅周辺というある程度広いエリア全体での開発ではなく、千葉駅だけ、高架下だけ、このビルだけ、この広場だけというように狭いエリアだけで開発してしまったように見える。そのためか千葉駅周辺全体の景観は統一感がなく、さびれた地方都市という印象を与えてしまう。そこで、私が考えたのは一つの大きなコンセプトを作り、それに基づき千葉駅周辺の景観を作り上げていくことである。都市開発をしていく上では当然のことかもしれないが、千葉駅周辺の現状はほど遠い位置にあるのだから、ここから始めるべきである。今まで5で提案してきたものも全て大きなコンセプトの元で変えていくことを前提としている。そうすれば、高架下であれば外で接している空間をオープンスペースとして考えれば、コンセプトに合ったオープンスペースの利用法(提案した街灯もコンセプトに沿ったデザインにすること)があるだろう。路上駐輪について提案している際に、自転車・バイク・自動車の通行を禁止して歩行者だけの道を提案したが、そういうものもコンセプトに組み込めれば安全で快適な景観に合った道路が出来ると思う。そして、植栽はコンセプトにあった緑を配置していくことにより、緑陰を作り出したり、人に安らぎなど心のゆとりを与え

たりと今の無機質な印象を柔らかいものに変えることになるだろう。モノレール、葭川は千葉駅周辺の大きなシンボルとしてコンセプトに組み込んでいけば、美しく特色ある景観を生み出すことになるだろう。

つまり、私が考える美しい千葉駅周辺を形成するためには、明確なコンセプトのもとに、時間をかけて一つ一つの景観要素をブラッシュアップしていくことであると考えている。

7. おわりに

千葉駅周辺の景観を考えていくうちに今まで見て見ぬ振りしてきた本当の姿を見ることが出来た。次に千葉駅周辺を歩くときには、また違う発見があるかもしれない。見慣れ、行きなれた街に多くのことを考えさせられ、勉強させてもらった。

そして、私が求める美しい街とは「街全体に緑があふれ、歩行者を第一に考えた快適でどこかに立ち止まってしまう風景のある、街自体のシンボルとなるものがある街」である。